

平成28年度社会福祉法人宮古市社会福祉協議会事業報告

1 総括

2 事業活動等実績（別冊）

- ・平成28年度社会福祉法人宮古市社会福祉協議会事業報告
- ・平成28年度社会福祉法人宮古市社会福祉協議会研修等報告
- ・平成28年度宮古市委託業務実績等報告書（※参考配付）

平成28年度社会福祉法人宮古市社会福祉協議会事業報告

1 総括

当年度の宮古市における地域福祉の推進に向けた事業活動等の取り組みは、概ね計画通り進められたものの、8月30日に当地方を通過した台風10号による大規模災害の発生により「みやこわくわくまつり」を中止し、被災地区を支援するため、「宮古」「新里」「川井」の3地区に災害ボランティアセンターを設置するなどの対応と岩泉町災害ボランティアセンター運営支援等を併せて行い、早期の地域住民生活の安定を取り戻せるよう、非常時の活動を行いました。

また、社会福祉法改正にともなう社会福祉法人制度改革の対応に向けた「経営組織の在り方」や「内部留保の明確化と福祉サービスへの再投下」に向けた対応として、「評議員選任・解任委員会の設置」、「新評議員の選任」等、平成29年4月施行に向けた準備を行いました。

今後、さらに制度における「地域づくり」に向けた住民主体の取り組みの推進と、福祉関係者等に求められる役割を果たすことが期待されていることから、引き続き福祉人材の養成等に努めてまいります。

なお、それぞれの部門による活動の総括は次のとおりです。

【総務部門】

社会福祉法人制度改革に伴い定款・諸規程等の見直しについて、専門委員会の協議を得て平成28年12月に理事会・評議員会を開催し、定款の変更と関係する細則等の制定及び改正を行いました。また、定款に定めた方法により、平成29年2月に評議員選任・解任委員会を開催し、平成29年4月1日から平成32年度定時評議員会までを任期とする新評議員を選任いたしました。

人材確保・育成の取り組みとして、平成28年度計画採用により介護福祉士1名を採用するとともに、職員が能力向上を目的に行う研修経費の一部助成を新たに行い、社会福祉士1名、社会福祉主事4名、介護福祉士1名の資格を取得しておりました。

□理事会開催 5回

- ・第1回／事業報告・決算、事業実施関係
- ・第2回／補正予算関係
- ・第3回／定款・規程改正、車両リース契約、補正予算関係
- ・第4回／評議員選任・解任委員の選任、評議員選任・解任委員会の招集、災害見舞金取り扱い関係
- ・第5回／定款・規程改正、補正予算、事業計画・当初予算、施設の長等任命関係

□三役会議 11回（職員現況、理事会・評議員会・監査提出資料等）

□評議員会開催 4回

- ・第1回／事業報告・決算、事業実施関係
- ・第2回／補正予算関係
- ・第3回／定款・規程改正、車両リース契約、補正予算関係
- ・第4回／定款・規程改正、補正予算、事業計画・当初予算関係

- 監査 /8回（法人4回、介護保険・障害実地指導3回、法人指導監査1回）
- 評議員選任・解任委員会 1回（評議員の選任）
- 専門委員会 /4回
 - ・地域福祉推進専門委員会/2回（宮古市福祉大会表彰要綱の見直し、宮古市地域支援に係る事業の受託について、災害見舞金要綱及び平成28年台風10号被災に伴う災害見舞金について、宮古市地域福祉活動計画評価委員会要項の整備）
 - ・組織検討専門委員会 /1回（定款諸規程の改正）
 - ・企画調整専門委員会 /1回（宮古市新里学童の家指定管理者募集について）
- 調整委員会 /7回（平成27年度事業報告、これからの社会福祉法人の在り方と地域福祉活動を推進する社協の役割、平成29年度事業実施に向けて、介護保険事業の今後の展開について等）
- 幹部会議 /12回（毎月初めに開催）
- 運営会議 /12回（毎月の事業計画・報告等）
- 衛生委員会 /12回（衛生管理の取り組み、健康診断計画、ストレスチェック等）
- 施設管理等
 - ・宮古市総合福祉センター/利用人数(延べ)22,894人〔うち有料829人〕
 - ・地域福祉バス運行 /利用人数(延べ) 666人〔利用件数21件〕

【地域福祉部門】

第1期宮古市地域福祉活動計画に基づき、地域福祉活動の推進に努めましたが、台風10号水害に伴う災害ボランティアセンター運営や岩泉町社協への派遣支援等があり、目標であった住民との課題共有や話し合いの場の実施にはいたらず、職員間での事業の成果や課題及び見直しにむけた協議に留まりました。

生活復興支援センターでは災害公営住宅入居者懇談会や仮設住宅同窓会の開催、集会所等を活用し支援団体等と連携しながらサロン活動等に取り組みました。

事業開始2年目となった生活困窮者自立支援事業については、相談支援はじめ任意事業の強化に努めました。その中で就労準備支援においては地域活動に参加する機会を創出し、継続的支援を通して課題が明確になる一方、今後は出口機能を高めるため関係機関等との連携強化や地域の理解を深めるための取組みが重要となっています。また、民間団体の支援をいただきながら行政及び地域ボランティアの協力のもと生活課題を抱えた子ども達の暮らしを支えるこども食堂およびひとり親の自立支援に新たに取り組み、月1回の定期的開催につながっています。

- 宮古市社会福祉大会の開催（式典・表彰・フォーラム）
 - ・表彰者 /48名・22団体
 - ・来場者 /280人

□宮古市地域福祉活動計画

- ・福祉と学びの育成 福祉活動人材の育成
福祉教育担当者研修会 1月 (43人/23校・7事業所)
社会福祉施設等ボランティア受入担当者連絡会および研修会 8月 (23人・12事業所)
- ・誰もが安心して暮らすことができる地域づくり
地域、人がつながりあう「場所」づくり 住民主体サロン 73地区 (新規7地区)

□宮古市福祉作文・標語コンクール

- ・作文コンクール/114件 (小学校 72件、中学校 39件、高校・一般3件)
- ・標語コンクール/233件 (応募者数 194人)

□敬老会福祉活動事業

- ・申請人数 /6,827人 (64件)

□たすけあい銀行

- ・貸付件数/ 4件 (117,000円)
- ・償還件数/ 55件 (264,000円)
- ・貸付実数/ 21件 (926,000円)

□地域福祉活動団体等支援 (助成) /46団体 (31件) 1,658,400円

- ・民生福祉活動 /16団体 (1件) 837,900円
- ・児童福祉活動 / 1団体 (1件) 50,000円
- ・老人福祉活動 / 1団体 (1件) 50,000円
- ・障害者(児)福祉活動/9団体 (9件) 210,000円
- ・子育てサークル活動/3団体 (3件) 60,000円
- ・母子福祉活動 / 1 団体 (1件) 20,000円
- ・ボランティア活動 /15団体 (15件) 430,500円

□災害見舞金交付/火災4件 40,000円

□生活復興支援センター

- ・職員配置/26名 (うち7名兼務)
>>生活支援相談員 15名 (うち7名兼務)
>>地域コーディネーター 11名
- ・ボランティア稼働者数/1,185人
- ・仮設住宅等訪問件数/ 28,427件
(仮設11,797件、みなし仮設909件、在宅15,721件)
- ・支援団体等連携会議 / 3回
- ・行政連絡調整会議 / 12回
- ・住民集会 / 21回
- ・入居者懇談会 / 25回
- ・サロン活動 / 622回

□生活困窮者自立支援事業

- ・職員配置／ 5名（うち1名兼務）
 - ≫主任相談支援員 1名
 - ≫相談支援員兼就労支援員 2名
 - ≫相談支援員（町村部担当） 1名
 - ≫家計相談支援員 1名（うち1名兼務）
- ・新規相談者数 / 170人
- ・プラン作成数 / 62件（うち、再プラン／13件、終結／13件）
- ・支援調整会議 / 29回
- ・ケース会議 / 9回
- ・出張相談会
山田町／11回、岩泉町／8回、田野畑村／4回
- ・学習支援実施回数 / 132日（延べ87名）
- ・食糧支援数 / 68件

□生活課題を抱えた子ども達の暮らしを支えるこども食堂及び親への就労支援事業

- ・しおかぜキッチン 4回（延べ参加者17名、延べ支援者31名）

□宮古市成年後見制度（法人後見）ニーズ調査業務

- ・職員配置/ 1名
 - ≫相談支援員 1名
- ・本人家族調査 850件（内411件回答）
- ・施設・病院・事業所調査 32件（内23件回答）
- ・関係機関調査 日常生活自立支援事業
盛岡地方裁判所宮古市部
専門職後見人（弁護士3名、社会福祉士2名）
- ・報告書作成 100部

【相談支援部門】

「日常生活自立支援事業」は、分野横断的な相談支援や権利擁護の推進等の住民生活に関わる福祉関連事業をあわせて総合的に実施するよう努めました。利用者は昨年度より11名減の82名となっています。しかしながら、成年後見制度移行は7名と促進されております。利用者数が減少した一方で、相談件数は前年度より増え1,511件となっています。昨年度と同様、利用者からの相談が大半を占める中において新規相談において適切なアセスメントをすることにより、本事業の利用以外での対応ができております。また、岩泉地区においては台風被害により利用者が1名犠牲となりました。岩泉地区の生活支援員は地域の支援を最優先とし、利用者18名は専門員による支援を行っています。今後も関係機関との連携を強化するとともに、「地域福祉」「権利擁護」の視点に立ったソーシャルワークが展開できるようにしていきます。

「総合相談支援センター」は、高齢者等の介護予防の啓発と促進を目的に、地域へ出向いての介護予防教室、認知症予防の周知を行っております。地域の相談窓口とし

て個別訪問や地域のサロン訪問を継続し福祉サービスの利用、その家族の課題についても解決に向けて一緒に進めることができました。福祉サービスの相談が増えている一方で、高齢者の集う場所が欲しい等インフォーマルな資源に対する要望の声があり地域包括支援センターや地域福祉課との連携によりこやまだの会の立ち上げにつなげることができました。地域介護予防と併せて高齢者同士の交流、情報交換の場につなげることが出来ました。今後も個別支援を通したニーズキャッチから住民同士が支え合う仕組みづくり等、地域の支援につなげるよう努めていきたいと思ひます。

配食サービスを介した見守り安否確認では地域包括支援センターや関係部署と情報共有、連携を図り体調の急変があった利用者の対応をすることができました。

「居宅介護支援事業」では、ご利用者様及びそのご家族様等の意向を尊重し、可能な限りご自宅において住み慣れた環境で生活ができるように配慮し、支援を行いました。また利用者、家族の体調の変化や利用調整などに対応しています。

「特定・障害児相談支援事業」ではご利用者様、及びご家族様へ寄り添い、希望を確認しながら支援を行いました。また関係機関との連携を図り情報を共有し計画作成に務めました。

□宮古市地域包括支援センター総合相談支援事業

- ・総合福祉センター在宅介護支援センター／相談受付件数7,670件
- ・清寿荘在宅介護支援センター／相談受付件数3,254件

□配食サービス事業

- ・宮古地区／利用人数(延べ) 2,297人(うち宮古市委託事業 774人)
- ・新里地区／利用人数(延べ) 99人
- ・田老地区／利用人数(延べ) 390人(うち宮古市委託事業 0人)
- ・川井地区／利用人数(延べ) 0人(28年度休止)

□居宅介護支援事業

- ・宮古居宅介護支援事業所／プラン作成 3,283件(延べ)
- ・田老居宅介護支援事業所／プラン作成 894件(延べ)
- ・新里居宅介護支援事業所／プラン作成 573件(延べ)
- ・川井居宅介護支援事業所／プラン作成 1,293件(延べ)

□日常生活自立支援事業

- ・宮古地域福祉権利擁護センター
 - >>契約件数 82件(認知症 33件、知的 16件、精神29件、その他4件)
 - [新規契約 8件(認知症 6件、知的 0件、精神 1件、その他 1件)]
 - [契約終了 19件(認知症 10件、知的 2件、精神 6件、その他 1件)]
 - >>相談件数 1,511件(認知症 676件、知的 280件、精神 494件、その他 61件)

□特定・障害児相談支援事業

- ・特定相談支援事業／計画件数 30件(モニタリング 83件)
- ・障害児相談支援事業／計画件数 22件(モニタリング 42件)

【在宅福祉サービス部門】

宮古地区(総合福祉センター)、訪問介護については、毎日利用の方の死亡や入所された方が多く見られ、新規で依頼がくるのは、介護予防の方でした。また、障がいの利用者の方からの要請が増えました。ほぼ、精神疾患をお持ちの方で、急にキャンセルというのも多くありましたが、対応をしております。デイサービスについては、前年度より1日平均2人多くなって、実績は前年度より上回りました。訪問入浴については1台稼働となりましたが、1日4.4件を平均的に訪問できているので、無駄の無いサービス提供となっております。子育てについては、毎月1回日曜日に「あそびの広場」を開催しました。家族連れでの参加が多く、宮古市内で家族が遊べる資源が少ない中で、多くの方々を利用されました。すこやか幼児教室では、12月以降、児童発達支援管理責任者を配置したことによって、新規の利用者様の受け入れができ、複数回利用の方も増えました。ただし、1年間をみると、実績はかなり減少しました。田代児童館の学童は、学校に通学している全校生徒が学童を利用したので、人数は増えております。幼児は横ばいとなっております。田老児童館は、閉館に伴い、駆け込み入館のお子さんが見られ、人員も増えました。

田老地区では、被災世帯の高台移転など、生活環境変化による身体機能の低下、閉じこもりなどが懸念され、通所介護では、地域支援係、居宅介護支援事業所と情報共有しながらの新規獲得、休日の代替利用、複数回利用促し等、利用者増加に努めました。その一方で、複数回利用の1人暮らし高齢者が体調悪化、認知症進行により施設入所となるなど、前年度実績を下回る結果となりました。

新里地区では、訪問介護は台風10号以来実績が下がっています。浸水被害により自宅に住むことができなくなり入所・転居を余儀なくされた利用者が多いことが原因でと思われます。実績が下がっているので新規受入を積極的に行い、宮古のヘルパーの応援も得ながら連携したサービス提供に努めてきました。新里地区にただ一つの訪問介護事業所であり、他の居宅支援事業所とも密な連携を図り、認知面の問題を抱えた利用者や大きな困難を抱えたケースにも積極的に関わり実績を残してきました。また災害時のボランティアセンター運営にも参加し、地域に目を向けできる限りの活動に努めました。

津軽石地区では、清寿荘デイサービスセンターにおいて通所介護事業を実施し、在宅介護を支えるサービスの提供に努めました。介護保険及び介護予防、生きがいデイの利用対前年度比実績は105%と増加となり、年364日開所による1日平均の利用者は平均22.6人となりました。介護予防地域支援事業としては、平成27年度より実施した毎月1回第4土曜日の「介護予防者集いの日」を継続的に開催し、地域の要支援者を対象に通常のデイサービスと違う「自らが考え」「自らが活動する」支援内容を柱として、年間利用者延べ113人と前年度を上回る参加者の受け入れとなりました。活動は3月をもって終了となりましたが、平成29年度から開始される介護予防・日常生活支援総合事業につながる効果が参加者よりみられています。

川井地区では、全体を通して前年度を下回る結果となりました。また28年度より通所介護事業所である、小国デイサービス、門馬デイサービスをむつわ荘デイサービス事業所のサテライト事業所としてスタートしました。利用単価が下がる中で、現在利用している利用者の利用回数を見直しを行い、少しでも多く利用して頂けるよう取り組みましたが、実績の増加には繋がりませんでした。利用実績減少の一番の原因としては、各サ

ービス事業所共通として、利用者数の減少が大きく響いた形となりました。障害サービスについては、入院によるサービス中止及び新規利用者の受入なしという事で、前年度を下回っております。また、基準該当障害福祉サービス生活介護については、利用者1名の受入を行っていましたが、12月に介護保険サービスへ移行となり、現在は利用者なしの状態ですが、受入体制は整えておきます。また、退職者が出る中で、限られた職員にて調整を行いながら、川井センター全体で協力しながら、事業所の運営を行いました。

【介護保険】

□訪問介護事業

- ・ホームヘルプサービスセンター（宮古、新里サテライトセンター）
　　>>提供件数(延べ) 23,189件（うち予防介護654件）
- ・かわいホームヘルパー事業所
　　>>提供件数(延べ) 4,032件（うち予防介護 110件）

□訪問入浴介護事業

- ・訪問入浴サービスセンター /提供件数(延べ) 951件
- ・かわい訪問入浴サービス事業所/提供件数(延べ) 66件

□通所介護事業

- ・総福デイサービスセンター /提供件数(延べ) 7,035件
　　>>総福 / 6,592件（うち予防介護 312件：開所日数 291日）
　　>>サテライト / 443件（うち予防介護 219件：開所日数123日）
- ・田老デイサービスセンター /提供件数(延べ) 3,514件
　　（うち予防介護500件：開所日数240日）
- ・清寿荘デイサービスセンター/提供件数(延べ) 8,115件
　　（うち予防介護 631件：開所日数 364日）
- ・むつわ荘デイサービス事業所/提供件数(延べ) 7,757件
　　>>むつわ荘 / 4,654件（うち予防介護245件：開所日数 252日）
　　>>小国サテライト / 2,381件（うち介護予防80件：開所日数252日）
　　>>門馬サテライト / 722件（うち介護予防41件：開所日数152日）

□短期入所事業

- ・清寿荘ショートステイ /提供件数(延べ)631件

【障害福祉】

□障害福祉ホームヘルプサービス

- ・ホームヘルプサービスセンター/提供件数(延べ) 2,898件
　　（うち同行援護26件/移動支援16件）
- ・かわいホームヘルパー事業所 /提供件数(延べ) 190件

□児童発達支援事業「すこやか幼児教室」/提供件数(延べ) 764件

□障害福祉サービスセンターゆにぞん/提供件数(延べ)3,811件 （うち地域活動 158件:開所日数 238日）

□基準該当障害福祉サービス生活介護

むつわ荘デイサービス事業所／提供件数(延べ) 53件 (開所日数 53日)

□地域活動支援センターかねはま／提供件数(延べ)3,250件 (開所日数 244日)

【子育て支援】

□児童館

・宮古市田代児童館 /提供件数(延べ) 3,747件 (開所日数 296日)

>>幼児 909件、児童 2,838件

・宮古市田老児童館 /提供件数(延べ) 3,032件 (開所日数 244日)

□学童の家

・宮古市藤原学童の家 /提供件数(延べ) 4,755件 (開所日数 290日)

□子育て支援センター

・つどいの広場「すくすくランド」 /利用件数(延べ) 8,857件 (開所日数 359日)

【地域施設部門】

「老人福祉センター」の利用は前年度とほぼ同様であり、台風10号の影響により県民長寿体育祭への参加は出来なかったものの、その他の年間事業は計画どおり行い、「身体障害者福祉センター」の運営管理業務及び地域活動支援センターでは、四季折々の行事や作品展示会及び地域交流会・卓球バレーに加え、平成28年12月から手芸倶楽部また平成29年3月からサウンドテーブルテニスを取り入れ実績アップを図りました。また、障がい者団体活動では、希望郷いわてオープン卓球バレー全国交流大会に向けて機能訓練等意欲向上を図り、結果としてわんこリーグで宮古市身体障害者福祉会優勝、地活かねはま4位入賞することができました。

「高齢者生活福祉センター」は、一時的に在宅での生活が困難となった利用者の受入を行いながら、安心して居住生活を送ることが出来て、また自宅へ戻り生活を送る事が出来るよう支援を行いました。平成28年度については、誰もが平等に施設を利用出来るよう、入所期間については必要最小限の期間に定め利用率を上げるよう運営を行いました。その成果もあり前年度に比べて若干ではありますが、利用実績を上げることが出来ました。また入所希望時期については冬期間の希望が多くありましたが、スムーズな受入を行う事が出来ました。入所者の対象地域としても川井地区だけでなく新里臺目地区の利用者の受入を行い、より広範囲での利用拡大に繋がったと思います。

「養護老人ホーム清寿荘」は、入所者の高齢化と要介護者増加の現状の中、入所者の意思及び人格を尊重しながら、安全・安心の生活に努めると共に、個々の状況に応じた介護保険サービスの利用や適切な他施設への移行検討を行いました。また、昨年度は清寿荘設立50周年を迎え、音楽クラブを中心に「清寿荘荘歌」を作詞、敬老祝賀会で披露しました。入所者の健康管理の基本となる安全な食事の提供は嗜好調査を基に入所者の食事意向を把握し、栄養のバランスが良く残食の少ない献立を検討し楽しく喜ばれる食事の提供を行ないました。イベント時や体験学習など、幼稚園・学生等・地域住民・ボランティア団体を積極的に受け入れ交流を図りました。さらには、イベント時に外部の障

がい者の事業所に協力をいただき、今後の活動のつながりを構築しました。入所者の健康管理においては、日々の体調確認と定期的な通院を行い、感染症時期には徹底した消毒や清掃など衛生面にも配慮し取り組みました。施設整備では施設の老朽化が進んでおり計画的な修繕・保守点検を実施、維持管理に努めました。

□施設運営

- ・宮古市金浜老人福祉センター /提供件数(延べ) 8,108件
- ・宮古市身体障害者福祉センター/提供件数(延べ) 8,113件
- ・宮古市養護老人ホーム清寿荘 /入所件数(延べ) 555件
- ・高齢者生活福祉センター /入所件数(延べ) 107件

2 事業活動等実績（別冊）

- ・平成28年度社会福祉法人宮古市社会福祉協議会事業報告
- ・平成28年度社会福祉法人宮古市社会福祉協議会研修等報告
- ・平成28年度宮古市委託業務実績等報告書（※参考配付）